港湾地域のまち開発と歴史的役割～横浜港事例より～

経営情報学部　事業構想学科
21811249　西田 翔一　（21811249sn@tama.ac.jp）

１．目的

本発表の目的は、横浜港の歴史・経緯を深掘りし、港湾地域の歴史的価値・観光価値がどのような相乗効果をもたらすのかについて、研究を行った。

２．調査方法

（１）横浜（みなとみらい21地区/関内）現地での情報収集、（２）横浜港の歴史に関連するデータ収集及び、インターネット・文献調査を行った。

３．流通空間から観光空間への変化

横浜港開港時代から高度経済成長期にかけては、各産業分野での投資・需要の増加に伴い、流通業（物流・倉庫）を主体として横浜港を支えてきた。一般商業貨物やエネルギー・食料等の輸出入物資の増加に伴って、ふ頭・コンテナターミナルといった港湾設備を担う施設の建設・稼働も進められた。また、コンテナ輸送への切り替えによって、輸出入貨物量・貨物コンテナ輸送の効率性が高まり、経済的・国際的な物流ネットワークの基盤を支える重要な役割を果たしている。現在では、ウォーターフロント空間の創造・開発を行い、商業や国際交流など港湾管理機能の拡大を測り続けている。これまでの流通空間としての歴史・文化をうまく機能転換させることで、横浜港を観光地としての付加価値を高めることに成功したと思われる。

４.歴史的建造物・文化財の機能転換

横浜港を観光地としての付加価値を高めることに成功した要因として、港湾施設や歴史的建造物・文化財を機能転換させたことが大きい。幕末から高度経済成長期にかけて、建設された歴史的建造物は、現在もなお横浜みなとみらい・関内地区に存在している。従来は、倉庫や金融機関・運上所・造船所など、港湾の業務を担って貿易・経済を支えてきた。それから、建造物の復旧・再建を経て、現在は商業施設や行政機関・文化施設へと機能転換され、うまく活用されている。歴史的建造物・文化財をあえて保存及び再活用することによって、横浜港湾の歴史的価値・観光価値をもたらしており、歴史のある港町として魅力を発信している。

５．結論

横浜港が観光地・ウォーターフロント空間を創造し続けられた背景として、積み重ねてきた歴史が大きく関わっている。インフラ・流通・暮らしを支える港湾拠点を維持することは必要性が高く、加えて歴史や文化を踏まえた機能転換を進めることによって、より高度な観光空間を作り出すことが重要といえる。

＜参考文献＞

・一般社団法人横浜みなとみらい２１HP「事業構想・都心部強化事業-みなとみらいエリアマネジメント」（https://www.ymm21.jp/biz/vision.html）
・一般財団法人交通経済研究所「港湾の中長期政策PORT2030」『運輸と経済』、第78巻第11号（2018）
・港湾局　港湾　国土交通省HP　（港湾 - 国土交通省 (mlit.go.jp)）
・横浜港振興協会『横浜港史』（1989）